

## 平成27年の新春を迎えて

一般社団法人 送電線建設技術研究会  
理事長 岩瀬 俊男

あけましておめでとうございます。経済産業省、電力各社の皆さまには日頃よりご指導いただき誠にありがとうございます。

また、会員の皆さまには、当研究会の諸活動にご協力いただき厚く御礼申し上げます。

昨年6月の総会において理事長職を拝命して、早いもので半年が経ちました。この間、各電力会社にご挨拶、ならびに当研究会活動へのご協力をお願いに参り、お時間をいただき情報交換をさせていただきました。電力会社幹部の方々からは、厳しさを増す経営環境にあっても、電力安定供給には送電設備の維持・更新は必要であり、そのためには継続的な送電工事が必要となること等のお話を頂戴しました。加えて、その送電設備の工事にあたって、送電工事業界の協力、当研究会の今後の活動に期待しているとお言葉も頂戴しました。特に、施工力を支える架線電工を始めとする作業員の確保、大型機械工具の整備等、従来から実施してきた調査結果の動向に注意を払ってくださっているとお話もいただき、当研究会の日常業務の果たす役割の重大さを、あらためて認識した次第です。

また、今年は「電力の安定供給を確保すること」等の目的のもとで展開される「電力システム改革」の初年度を迎えます。その大きな柱である広域系統運用の拡大に向けて「広域系統運用機関（仮称）」の設立がはかられる年でもあります。これに関連して、地域間連系線等の送電インフラの増強も計画されることとなりますが、新たな時代に向けて、必ずや我々がお役に立てる機会があるものと考えております。

いずれにせよ、これからも会員各社協力して、電力各社のご指導・ご支援を得ながら、送電工事推進にあたっての安全確保、ならびに施工品質・設備品質の確保に務め、また災害発生時における緊急復旧の対応等、安定的な電力供給に向けてお役に立ちたいと考えております。

送電工事業界には技術・技能継承を始めとして、特殊な部門であるがゆえの機械工具の維持・開発問題等の課題が多く残されておりますが、電力各社のご協力と会員各社の総合力で解決し、電力設備形成に微力ながらも貢献したいと考えておりますので、今後ともより一層のご理解ご支援をお願いいたします。

最後に、今後とも経済産業省、電力各社にご指導とご協力をお願いするとともに、会員各社のご活躍をお祈りして新年のご挨拶とします。

今年を良き年にしましょう。